

カンキツかいよう病の春期防除における銅剤の効果比較

近年、温州みかんから高単価での販売が期待できる県オリジナル品種への改植が進められている。しかし、かいよう病に対する感受性が高く、被害が大きいことが問題となっている。そこで、かいよう病に登録のある銅剤の中で有効な薬剤を検討した。

外観を著しく損ない、商品性が低下。



病斑から細菌が雨媒伝染するため、感染源になる。



「甘平」でのかいよう病被害

春葉に対する防除価（6月20日調査）



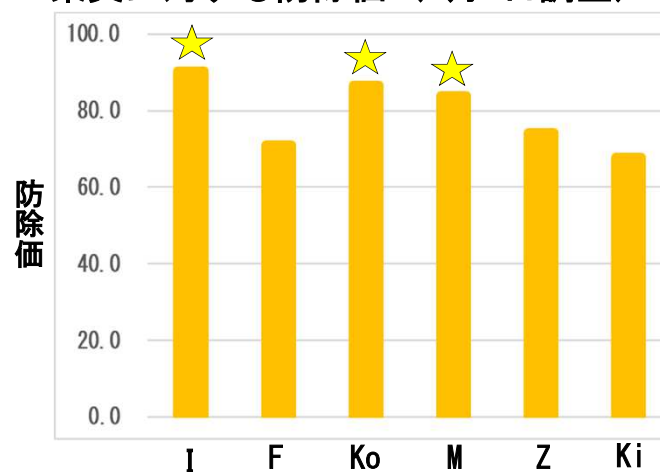
葉、果実ともに★の3剤で発病が抑えられている。

供試薬剤と散布月日（2019）

供試薬剤	処理日		
	3月20日	4月23日	5月30日
ICボルドー66D	40倍	80倍（アピオンE 1,000倍）	80倍
フジドーフロアブル	500倍（アプロン200倍）	1,000倍（アプロン200倍）	
コサイド3000	1,000倍（アプロン200倍）	2,000倍（アプロン200倍）	
ムッシュボルドーDF	500倍（アプロン200倍）	1,000倍（アプロン200倍）	
Zボルドー	500倍（アプロン200倍）	700倍（アプロン200倍）	
キンセット水和剤	600倍	600倍	600倍
無処理	-	-	-

※甘平（高接11年生）を供試。
3月9日に各試験樹にカンキツかいよう病菌を 10^8 cfu/mlで接種した。

果実に対する防除価（7月9日調査）



I : ICボルドー66D
F : フジドーフロアブル
Ko : コサイド3000
M : ムッシュボルドーDF
Z : Zボルドー
Ki : キンセット水和剤

ICボルドー66D、コサイド3000、ムッシュボルドーで高い防除効果が得られた。